

成願寺

季報

137

令和5年8月18日
(2023年)

目次

「歩み寄る人には安らぎを」山口正章	1
ご開山像修復及び開眼供養の報告	8
お盆行事の報告	10
中野区から幼稚園年長組、中野第一小学校を訪問	11
山内短信	12

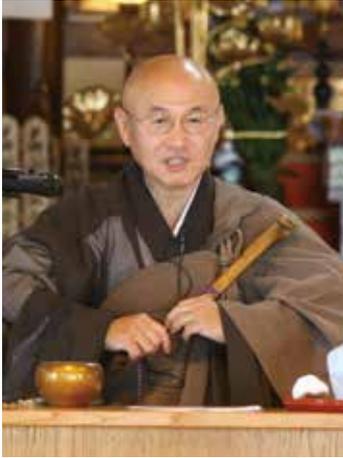
発行 多宝山成願寺
〒164-0012 東京都
中野区本町 2-26-6
電話 03-3372-2711
制作 地人館

令和五年 孟蘭盆会説教

歩み寄る人には安らぎを

福井県龍泉寺住職 山口正章

みなさま、こんにちは。私は本日福井県より参りました。成願寺様にお伺いしましたのは、今回で三回目、前回は九年前でした。その十年前、四十代のころに、初めてこちらでお話をさせていただきました。ですので私の話を十九年前も九年前も聞いてく



福井県龍泉寺住職

山口正章老師

ださったという方が、中にはいらつしやるかもしれません。

福井から参りましたと申しましたが、こんなにも暑いとは思いませんでした。東京駅に降り立つて少し歩きますと日差しが痛いほどで、梅雨が明けているかのような真夏のカンカン照り。その一方で九州、中国地方では大変な豪雨に見舞われています、同じ日本であっても天気や暮らしむきがこうも違うのかと、この暑さの中で改めて思い知らされました。

前回お伺いした際は、横浜鶴見の大本山總持寺様に勤めておりました。平成二十年から十三年間、一昨年までお役勤めをさせていただいたわけですが、十三年もの間、単身赴任をしておりますと、自分が住職をしておりますお寺のことがどうしても疎かになる。檀家さんに見えますと、お盆などはいるにはいても、普段はお寺にお参りに行っても不在。檀家さんからしますと、物足りないわけです。十年以上も檀家さんにそうした思いをさせてしまいました

し、母が九十を超えておりましたので、最後の世話
は私がしたいという思いもございまして、福井に戻
る決心をいたしました。

私どもの地方は豪雪地帯でして、特に寒の時期は
大雪になります。見渡す限り雪に覆い尽くされて、
本堂の屋根にもたくさん雪が積もるわけです。鶴見
におりました頃は、北陸で大雪だとニュースで知っ
ても、どこか他人事のような、誰かにお願いで雪
下ろしをしてもらえばなんとかなるだろう、なんて
思っておりました。

それが福井のお寺に戻りましたら、本日のように
一泊二日東京へ出てくるだけでも、寺は大丈夫だろ
うか。火の始末は、泥棒は、不審者なんかは来てい
ないだろうかと心配で心配で仕方がない。鶴見にお
りました頃は一ヶ月に一度しか戻りませんでした、
そんなふうな気にはななかった。なんとも不思議
な心持ちですが、自分の立つ場所が、鶴見のご本山
から自坊に戻ったんだな、とつくづく感じているわ
けでございます。

一昨年に戻り、それから二年間、母と暮らすこと
ができましたが、この二月に九十三歳で亡くなりま
した。本人は百まで生きると申しておりましたので、

いといるところを探して、これから産み落とす卵が
流れていくようなことがないように、尾鰭で砂利を
飛ばすようにしてすり鉢状の産卵床というものを掘
る。産卵を無事に終えますと、卵にそつと砂利をか
けて保護するのだそうです。そして一週間から十日
ほどで、メスもオスも力尽きて死んでしまう。

またカマキリは、交尾の際にメスはオスを頭部か
ら食べてしまう。食べられずに済むこともあるよう
ですが、これは、オスにしかない成分が丈夫な卵を
得る、丈夫な子になつてもらうために必要だという
説があるそうです。いづれにしても親が子を想
うということは、あらゆる生き物に共通する行動な
のかと思います。

子が親を想つ

話は変わりました、私ども龍泉寺のご開山であり
ます通幻禅師の出生についてお話をさせていただきます。
通幻禅師は總持寺の開祖・瑩山禅師様の孫弟子
にあたる方です。通幻禅師という方には、亡くなつ
たお母様からお生まれになったという伝説が残され
ています。お母様は身籠もつて、臨月を迎えていよ
いよ出産かという時に亡くなつてしまわれたのです。

私もそのつもりでしたが、あつという間に逝つてし
まいました。「二年だけでも一緒に暮らして、お母さ
んきつと喜んでましたね」、なんて人から言ってい
たくわけですが、息子としましては、もつと優しい
言葉をかければ良かった、こんなことをしてあげた
ら良かったと、後悔の日送りをしております。

生きてくれていた日々は、面倒だなあ、自分でや
れば良いのに、なんて思うこともたくさんあつたわ
けですが、今となつてはしてあげることができませ
ん。後悔先に立たず、孝行のしたい時分に親はなし、
とはよく言ったものです。皆さまも、私と同じよう
な思いの方がいらつしやるかもしれない。本日の
お盆の大法要では、どうぞ亡きご親族に心を込めら
れて参列していただければと思います。

親が子を想つ

親が子を想うということは、これは人間だけでは
なくてあらゆる動物に見られます。

犬や猫をはじめとする哺乳類はもちろん、例えば
鮭の産卵を考えてみますと、数年間にわたる海洋生
活を終えると、鮭は体をポロポロにしながら故郷の
川を遡上します。メスは川底からきれいな湧水が湧

昔は土葬ですから、焼かれることなく亡骸はお墓に
葬られた。そして、お母様は亡くなられてもお母
が子を産み落としたというのです。

お母様は毎晩、幽霊となつて土の中から出てきて、
町外れにある鮎屋さんに鮎を買いに行きました。鮎
といいますがキャンディーではなくて、昔のこと
ですから水飴です。お乳が出ませんので、鮎を買っ
てきて、生まれた我が子にお乳の代わりに与えてい
たということなのです。

毎晩のように青白い顔をした女の人が鮎を買いにく
ることを不審におもつた鮎屋の主は、ある日、つけ
て行ったのです。そうしましたら墓地の前で、すつ
と姿が消えてなくなつた。翌朝、明るくなつてから
再度墓地に行った主は、最近埋められたであろう土
まんじゅうの下から聞こえる赤ちゃんの泣き声に気
づくわけです。

店主は驚いて掘り返してみますと、生まれて数日
と思われる赤ちゃん、その傍には鮎が竹の皮に包
まれて置いてあつた。その赤ちゃんは、地域の人々
によつて育てられたのでしょう。少年にまで成長し
た時に、自身の不思議な生い立ちについて聞かされ
るわけです。すると涙を流しながら「自分は僧侶と

なって、母さんの菩提を弔いたい」と出家を決意するのです。金沢市にございます大乗寺の明峰禅師の下で修行をして、さらに、当時は能登半島の輪島市にございました總持寺の峨山禅師のもとで厳しい修行を続けられた。やがて總持寺の五代目の禅師様となられまして、通幻少年が決意した通り、お母様の菩提を弔い、また多くの弟子を育てられたのです。

龍泉寺には通幻禅師がお生まれになった場所に、禅師の墓塔が建てられております。通幻禅師は、お母様の元に戻られたわけです。

また龍泉寺には、通幻禅師の出生にまつわるお地藏様がお祀りされています。「乳もらい地藏」と呼ばれるそのお地藏様は、赤ちゃんを抱っこするお姿です。赤ちゃんは手を伸ばして、お地藏様の乳房を



龍泉寺様の乳もらい地藏

求めているのです。お地藏様は元々、男性でも女性でもないわけですが、この乳もらい地藏様は、母親のお

地藏様ですね。通幻禅師はお母様の慈恩に報いるため、また親のいない子どもたちの成長を願い、さらには、乳の出ない母親や、子育てに悩む父母を助けてくださるようにお祀りをして、以来、多くの人々の信仰を集めているのです。

親が子を想うというのは、我々人間はもちろんのこと、あらゆる動物に見られることです。しかしながら、子が親を想うというのはどうでしょうか。たぶんですが、これは人間だけに与えられた感情ではないでしょうか。犬や猫が親と一緒に暮らしていて、その親が亡くなった時、それは悲しそうにするでしょう。でも一年経って、二年経った時に何かするでしょうか。人間だけが、亡くなった方を思い、長い期間にわたって節目節目で供養をして思いを馳せるわけです。人間であるからには、親を想い、先祖の供養をするということがとても大切なのです。

本日、お盆の法要にお見えの皆様方は、仏教徒としてご参列されてるわけですから尊いことです。ですけれども、皆様、若い方々にもそうしたことを教えてさしあげていただきたいのです。ご自宅に帰られましたら、皆さんが仏教の先生となって伝えていただきたいのです。

慈悲の心

先ほど申しましたように、私は母を亡くしてから半年も経っておりません。流行りの言い方をすれば、「母親ロス」です。喪失感と共に、日々を後悔や反省の気持ちで過ごしております。

ではどうしたら、そういう気持ちから立ち直れるのだろうか。そういう思いで、いろいろな本を読んだり、お釈迦様のお言葉を勉強したりしましたら、やはりそれは「慈悲の心」だということです。

どういふことかと申しますと、自分の親のことをだけを想う、自分の子のことを想うのではなくて、自分の周りのあらゆる人のことを想うのです。あらゆる事柄に、「慈悲の心」を持って過ごしていく。そういう日送りをしておりますと、近しい人を亡くした悲しみ、苦しみが少しずつ薄らいでいくようだと、このようにお釈迦様は説いていらつしやいます。

これは道元禅師様のお言葉で言えば「愛語」。冷たい言葉ではなくて、愛情のある言葉。また「言施」という語もございますが、相手の方に対して思いやりの溢れる言葉を使うことです。

さらに「一挨拶」という禅宗には大切な語がご

ざいます。「挨拶」の元の語です。「おはようございます」「こんにちは」、これらが「挨拶」ですね。この語は元々は坐禅の時の言葉です。坐禅中、睡魔や妄想なんかによつて集中できていない様子が見えると、後ろから先輩のお坊さんが警策きやうさくという長い棒で肩をパンと打つわけです。でもあれは、急にパンと打たれましたら、さすがにびっくりいたします。ですから、予策と申しまして、これから肩を打ちますよという合図をポンとするわけです。この予策が「一挨拶」、パンと打つことが「一拶」なのです。「一挨拶」というのは、相手を思いやる「慈悲の心」なのです。警策というのは、坐禅に集中していなそうだから罰として打っているわけではない。「挨拶」というのは、坐禅の時の「慈悲の心」が元々なのです。

明治後期から昭和初期に活躍した詩人に北原白秋という方がいます。この方の「ひとつのことは」という詩が大好きなので、ご紹介させていただきます。

ひとつのことは 北原 白秋

ひとつのことはで けんかして

ひとつのことはで なかなかおり

ひとつのことばで 頭が下がり
ひとつのことばで 心が痛む
ひとつのことばで 楽しく笑い
ひとつのことばで 泣かされる
ひとつのことばは それぞれに
ひとつの心をもっている (後略)

皆様、いかがですか。私たちも経験がござえますね。自分が言った方、あるいは言われた方。

「あの時あなたに言われた言葉が、どんなに私の胸に突き刺さったことか」。こんな風に言われたらドキツとしますね。「そんなつもりはなかったけど、申し訳ないことだったな」と感じます。

あるいは、「あの時あなたに言われた言葉で、どんなに私の心が救われたことか」。こんな風に言われたら「そこまでのつもりはなかったけど、それは良かった」と嬉しくなります。

北原白秋さんが詩に託されたように、一つの言葉がそれぞれに一つの心を持つているのです。ですから「言霊」と言ったり「言の葉」と言ったりする。言葉には魂があるのです、であるならば、なるべく愛情のこもった、相手を思いやる言葉遣いをしたい

ものです。

また、言葉遣いとともに、常に微笑みをもって周りの人に接していただきたい。例えば、今日のお話の間中、私がしかめ面して、つまらなそうに皆様の前におりましたらいかがですか。たぶん皆様も同じような表情になってしまわれる。

昔の中国では「微は美なり、美は味なり」と言っただけです。微ほほえみかなものは美しい。美しいものには味わいがあるということです。皆様の微笑みは美しく、味わいがあるものでなければなりません。へつらつたり、その場しのぎの表情ではなくて、心から湧き出る微笑み。笑顔に勝る幸せはないのです。笑顔に勝る施しもない。もう一つ言えば、笑顔に勝る化粧もありません。しかも、笑顔に元手は要らないのです。どんなに高級なものに身を包んで飾りたてても、その人の表情が仏頂面だったら台無しです。たとえ質素な佇まいでも、心から湧き出る微笑みを浮かべていれば、周りの人も優しい気持ちになるわけです。

「一笑一若 一怒一老」という語もござえます。一回笑えば一歳若くなり、一回怒れば一歳老いる。その通りと思います。われわれは改めて、「慈悲の心」というものを意識したいと思うわけでござえます。

お経を読むとは、釈迦に説法？

コロナ禍で難しい時期も長かったと思いますが、皆様も方丈様と一緒に「般若心経」や「修証義」をお読みになると思います。ではお聞きしますが、お経は誰に対して読まれているのでしょうか。

私たち仏教徒は、お釈迦様が説いてくださったみ教えをお経としていただいている。そのお経を今度はお釈迦様に上げるといことは、「釈迦に説法」ではないのでしょうか。

どういふことかと申しますと、お釈迦様は今や肉体はなくなってお声を発することはできません。ですから遺されたみ教え、つまりお経を私たちがお釈迦様の代わりに読ませさせていただいて、その読み上げた声をお釈迦様からのみ教えとして聞くことで、改めて学ばせていただく。これが、「お経を上げる」といふことです。

では、ご先祖様に対してのお経はどうでしょうか。「ご先祖様には、読んでさしあげる」とお思いになるかもしれませんが、皆様のご先祖様はすでに成仏されて仏様の世界に安住されています。そうしますと、ご先祖様はお声を発することはできませんから、代

わりにお経を読ませさせていただくことで、その声をご先祖様からの教えとしてありがたく頂戴する。こういう受け止め方で、どうぞお経を読んでいただきたいと思うわけです。

私は寝る前などに YouTube で落語ですとか、朗読などを聞いておりますが、お経というのは、ある意味では朗読なのです。でもそれは普通の朗読ではなくて、信仰心を持った朗読。朗読というのは何遍も何遍も積み重ねていくと、いよいよ味わいが出て本物になる。お経も何遍も何遍も読むことによって、意味はわからなくても、読む人に何かしら備わってくる。もの見方が変わってくる。言葉遣いが変わってくる。眼差しが変わってくる。そうしますと自分の生活が変わってくるのです。お経を上げるといふことは、お釈迦様、ご先祖様から学ばせていただいているのです。

最後に私の大好きな言葉を紹介したいと思います。「歩み寄る人には安らぎを、訪れる人には微笑みを、去りゆく人には幸せを」。ややもしますと私たちはこの反対のことをしがちですが、どうか「慈悲の心」でお過ごしいただければと思います。

本日はありがとうございました。

合掌



開眼供養の様子



木曾ひのきの新たな部材を膠（にかわ）で胎内に取り付けて、頭部を固定する渡邊仏師



色の補修をする渡邊仏師



この機会に荘厳幕も新調

彫刻ハ塗換修復ノ誤リ 三十二孝善
とあります。先々代住職の三十二世長谷川孝善大和尚が書き記したものと考えられますが、「彫刻は塗り換え修復の誤り」とあり、文久四年に大仏師三上朝光によって彫刻されたのか、塗り換え修復された

て文久四甲子年（一八六三）正月の良き日に彫刻された。そして俳句は、七草粥の中へ鐘の音がまざるようだ、ほどの意味で、つまりは七草粥を祝っている時に鐘の音が聞こえてきた、という解釈になるかと思えます。次に右端に書かれている文字ですが、

のか定かではなくなっています。孝善大和尚が何を根拠にこのメッセージを残されたのか、今になってはわかる由がありません。
左端に書かれた文字は、今回の修復内容を渡邊仏師が後世の人たちに向けて記されたものです。
川庵宗鼎大和尚は、開基鈴木九郎の師・春屋宗能禅師（大雄山最乗寺五世）の四代目の法孫にあたり、文明八年（一四七六）に正観寺（成願寺の前の寺号）に住持し、堂塔、規範を整えて大いに隆盛に導きました。成願寺にはご開山の座像のほかにそのお姿が描かれた掛け軸が伝わっています。



瑩山禅師 ご開山・川庵宗鼎大和尚 道元禅師

て、その機会に胎内に納めてあつたお骨を鑑定。東
京大学名誉教授の鈴木尚先生により、たくましい熟年男性と若くして亡くなつた女性のお骨であり、成願寺開基鈴木九郎と娘小笹のも

◎ご開山像修復及び開眼供養の報告
開山堂（龍鳳閣）に安置されている、ご開山川庵宗鼎大和尚像の修復が成り、春彼岸中日に住職によって開眼供養が厳修されました。
開山像は前は昭和四十七年（一九七二）に修復さ



台座裏の文字

のと考えるのが自然であるとの報告をいただきました。
このたびの修復は、翠雲堂修復仏師渡邊雅文師の手によって、頭部の固定と、お骨の一部を桐箱に納めて胎内にお戻りする作業をしていただきました。
開山像の台座の裏に文字が残されています。
真ん中に、

東部中野住
七代 大仏師 三上朝光
文久四甲子年
正月吉辰之彫刻
七草の
中へまざるや
鐘の音

とあります。中野に住む七代大仏師三上朝光によつ



クラスの半数はリモートで参加した交流会



授業中の教室も見学



校内のいたるところにクイズが



校長室に特別に入れていただきました。



◎中野たから幼稚園年長組、中野第一小学校を訪問
去る二月二十日(月)、中野たから幼稚園の年長さんは、近くの中野区立中野第一小学校を訪問。出発前に主事先生から「みんなもう少して卒園を迎えて、四月からは小学校に進みますね。今日は小学校がどんなところか見学して、小学生のお兄さん、お姉さんと楽しく交流しましょう」とお話がありました。
小学校に到着してランチルームに通されると、一年四組のお兄さん、お姉さんが今回の交流会の準備をし

てくれていました。代表の児童から「今日は中野第一小学校を知ってもらうために学校探検を準備しました。小学校にはいろいろな部屋があります。勉強の種類によって場所を移動します。今日はその特別な部屋の前に紹介カードを貼りました。クイズもありますので考えてみてくださいね」と説明を受けました。クラスごとに担任の先生と学校探検スタート。
理科室、音楽室、体育館、給食室に保健室、勉強をする教室だけではなく、小学校には色々な部屋があることがわかりました。幼稚園とは異なる雰囲気緊張した様子もみられましたが、子ども達にとつて、小学校生活への期待が膨らむ経験となりました。

◎お盆行事の報告

去る七月十一日(火)、孟蘭盆会を厳修いたしました。全国より有縁のご寺院様約五十名にご参集いただき、コロナ前と同様の荘厳さを取り戻した大法要となりました。



開山・歴住忌



孟蘭盆会の様子

正午より滋賀県東円寺ご住職の藤木道明老師に導師をお勤めいただき、ご開山並びに歴代住職への報恩供養の法要を執り



朝のお勤め

行いました。十三時より福井県龍泉寺ご住職の山口正章老師にお説教を賜り(二頁参照)、続いて十四時より住職の導師により、孟蘭盆会の大法要をお勤めしました。
お盆初日の十三日は、本堂での朝のお勤めの後、墓地を供養して巡る墓せがきを行います。
ご開山、歴代住職の墓塔から始まり、十二名の僧侶が列を作って香を焚き、洒水、水の子を供えながら墓地内を讀経して巡りました。
この日から十五日までの三日間、檀信徒各家へ僧侶がお伺いし、四年ぶりとなったお柵経をお勤めしました。



墓せがき



檀信徒各家でのお柵経

山内短信

◎秋彼岸中日法要「修証義奉読会」のお知らせ

九月二十三日（土）秋分の日

十一時 受付始まり

十二時 講談 日向ひまわり師

十三時 法要

◎玄関前に竹垣完成

箱根植木さんにより、玄関前に新たに竹垣が完成しました。



◎中野第一小学校六年二組が当山にてスタンプラリー開催

去る三月四日（土）、五日（日）、中野区立中野第一小学校六年二組の児童の皆さんの企画で、当山と宝仙寺様を会場にスタンプラリーが開催されました。

これは総合の学習の授業の一環として行われたも

ので、「自分たちの住む町には、魅力がたくさんのお寺があるのに、みんな興味や関心がない。スタンプラリーを通して興味、関心を持ってもらいたい」という話し合いがなされ、児童のみなさんの手作りでクイズ、消しゴムはんこ、景品のメダルなどが用意されました。

当日は天候にも恵まれて、全学年の参加希望者が、低学年は保護者と、高学年は友達同士連れだつて来山。約四十人がスタンプラリーを楽しみました。



観音堂の前で、スタンプを押す子どもたち。



成願寺 5 カ所、宝仙寺 5 カ所で押して完成。成願寺はだるま、宝仙寺様は白塚のモチーフ。

檀信徒の皆様へ 万が一ご不幸があった際のお願

ご葬儀の導師を勤める住職の体力を鑑み、式はできる限り成願寺にて執り行うようお話ししています。

まずは、ご相談ください。